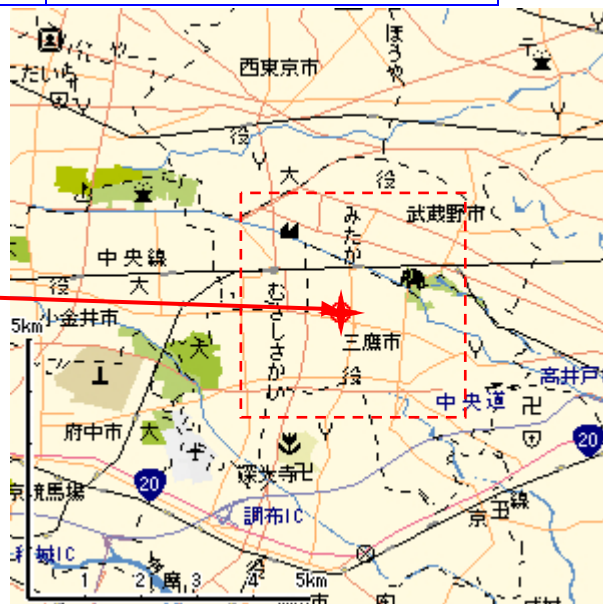


37 東京都 三鷹市

せんがわ 仙川（水源の森あけぼのふれあい公園）

水源	導水方法	導水管所	水環境上の問題
雨水	自然流下	河川・水路	水質悪化・悪臭 親水性・景観



※地図中の破線枠は次ページの地図範囲



対象地域の概要

・地域の概要

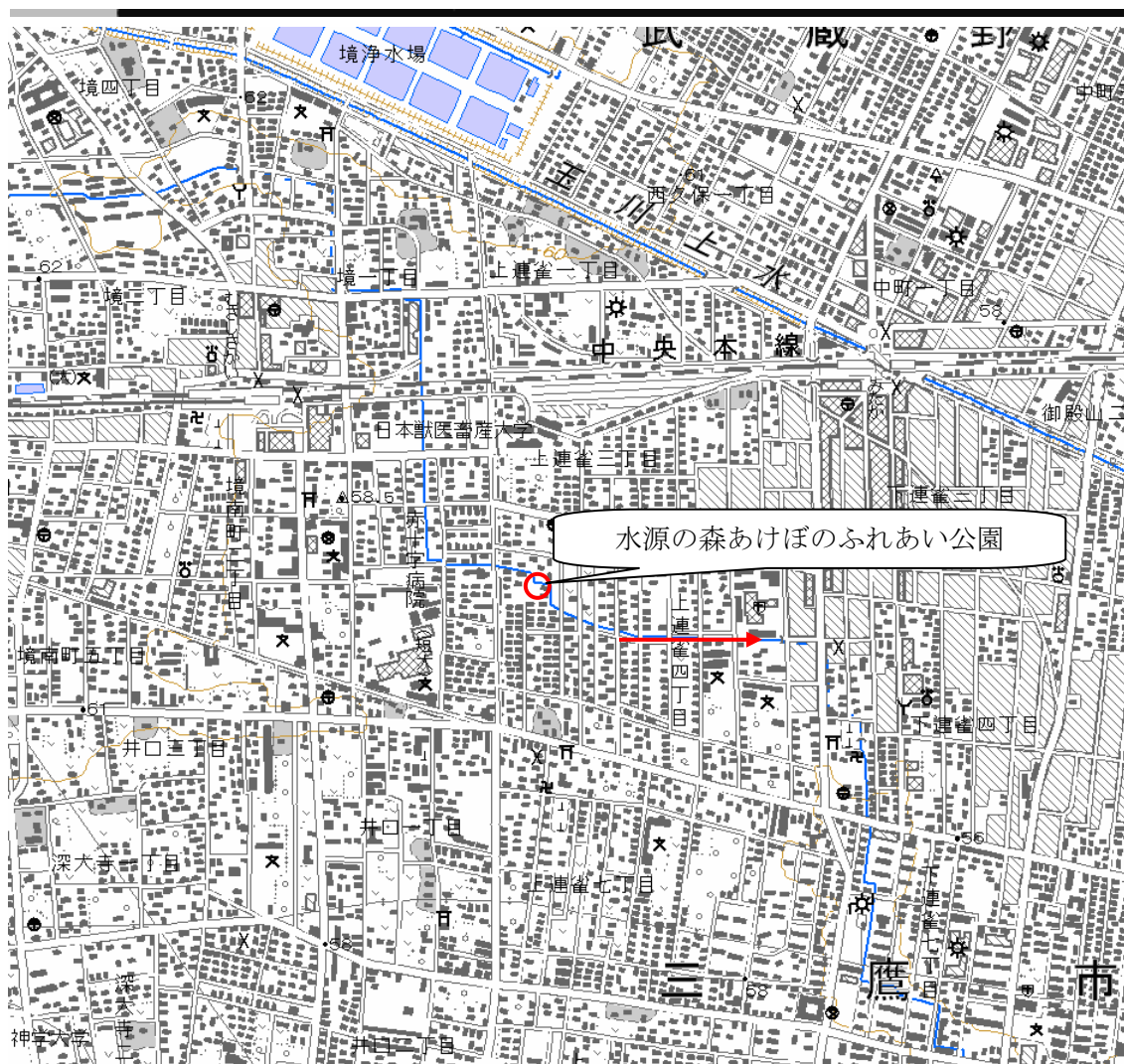
三鷹市は、東京都のほぼ中央に位置し、東は杉並区、世田谷区の2区に、西は小金井市、南は調布市、北は武蔵野市にそれぞれ接しています。東西 6.35km、南北 5.24km、総面積は 16.5km²です。

東京の西郊に広がる武蔵野台地は、北西は入間川、北東は荒川、南は多摩川の沖積低地、そして東は東京低地によって界されたおよそ 500km²にもおよぶわが国で最も大きな洪積台地の一つであり、三鷹市はこの武蔵野台地の中央部南端にあります。

・対象水域の概要

仙川は、小金井市貫井北町から武蔵野市を流れ三鷹市の西北部から中央部を経て東南部へと流下し、世田谷区鎌田で野川と合流後、多摩川に注いでいます。杏林大学病院・勝淵神社付近は、かつては広大な沼地や水田であり、川床のいたるところから湧水が湧き出し、その様子がいくつもの釜を伏せたように見えた（湯水の湧き出している部分を「釜」と呼びます）ことから、「千釜」と呼ばれていましたこの千釜という言葉が仙川の由来といわれています。

仙川は丸池が源頭水源との説が有力ですが、現在は丸池よりも上流まで延長されており、本事例付近の仙川は、都市排水路として人工的に造成された河川区間のため、市街地を縫うようにして直角に曲がる流路が続き、安定した自然水源が無く、普段は水が流れていない部分です。



<p>対象地域の概要</p>	<p>・水環境所の問題：水質悪化・悪臭 生態系悪影響 親水性・景観 もともと自然の安定した水源が存在しないため、降水が無い限り流れがみられない都市排水路です。このため造成された頃から水量の変化等の問題が発生していたと思われます。また、下水道整備前は生活排水の流入があったため、水質の汚濁や悪臭といった問題も当時から起きていた可能性があります。さらにはゴミの不法投棄も発生していました。</p>
<p>目標</p>	<p>目標は設定していません。</p>
<p>導水開始</p>	<p>平成9年</p>
<p>水源</p>	<p>・水源 水源の森あけぼのふれあい公園とその周辺約1haの面積に降った雨水を利用しています。 ・他の水源 地下水</p>
<p>導水量</p>	<p>水収支をはっきりと把握できていないため、湧水の涵養にどれほどの効果があるかは不明です。貯留量は530m³であり、全量が仙川へ流入するわけではなく、多くは地下浸透する部分もあるため、仙川上流部分の流れを常に生み出すほどの水量とはなっていません。</p>
<p>導水方法</p>	<p>直接の浸透もしくは雨水排水管を経て、貯留槽に入ります。このハイドロスタッフシステムを採用した貯留槽であるため、遮水シートを敷かない限り、自然に浸透していきます。水深50cmまでは水が残るように遮水シートを敷き、地下浸透または仙川へ自然に流下するようになっています。動力は使用していません。</p>
<p>施設諸元</p>	<p>新規設備：雨水浸透貯留施設 既存設備：－ 導水距離：0m</p>

費用	<p>・費用 <初期費用>43,000千円（内補助金：5,000千円） <維持費用>200千円（2～3年毎）</p> <p>・内訳 <初期費用> 公園造成その他含めて43,000千円かかりました（文献調査により、水源の森あけぼのふれあい公園へ導入された雨水貯留・浸透技術「ハイドロスタッフ（SSBB工法）」（浸透型）の1㎡当たりの設置費用に単純に530㎡をかけると、17,702千円となります）。 <維持費用> 維持費用については、2～3年毎に雨水浸透貯留槽清掃（雨水貯留施設に堆積した土砂等の除去など）に200千円程度かかりますが、そのほかについての維持費用はかかりません。</p> <p>・負担主体 <初期費用> 三鷹市、国交省 <維持費用> 三鷹市</p> <p>・補助 初期費用のうち、5,000千円は国土交通省の公園費、防災費としてそれぞれ補助を受けています。水源の森は防災公園としても整備されており、防火用水の確保、防災器具の設置等が主な整備内容ですが、採用された雨水貯留施設は免震性能もあり、震災対策としても機能しています。</p>
運用状況	<p>降水があれば仙川へ流入するという状況であり、常に導水しているわけではありません。また、大雨時には貯留槽からのオーバーフローで仙川へ流入します。</p>
関係主体との調整	<p>・調整内容 東京都の「いこいの水辺整備事業」（平成2年）によって、仙川の護岸、河床が整備され、公園部分は基本計画に基づき三鷹市で実施しました。工事や計画についての東京都との調整はありましたが、用地の取得については調整の必要がありませんでした。</p> <p>・関係主体と主な役割 東京都：河川管理者の東京都と、護岸、河床の改修について協議を行いました。</p>
効果	<p>仙川に流入する水量が足りず、効果は薄いです。 親水性は格段に向上しました。しかし肝心の仙川への流入水量は、流れを常に生み出すには足りない状況にあります。</p>
整備時・今後の課題	<p>問題はありませんでした。</p>
注目すべき事項	<p>雨水浸透貯留施設から河川への導水です。また、既設の垂直護岸の改修が実現しました。</p>
その他関連事業・情報	<p><整備の概要> 平成7年に「仙川上流部環境整備基本計画(案)」に基づき整備した公園です。もともと安定した水源のないエリアであったため、自然の水源涵養をモチーフとした公園を整備する計画でありました。 雨水を極力とどめ、ゆっくりと流下させることによって水害の抑制を狙い、かつ、地下浸透させることによって湧水の涵養を狙う目的での整備でした。また、都市型河川に見られる垂直護岸を改修することによって親水性も向上させました。</p>
リ及資 ンび料 グヒ提 先ア供	<p>東京都三鷹市都市整備部緑と公園課：（代表）0422-45-1151</p>
工 モ 参 考	<p>三鷹市 HP:【まちづくりに関する用語集】 http://www.city.mitaka.tokyo.jp/a014/p027/d02700085201.html</p>